

環境教育委員会所管事項調査報告書

期 日	平成30年5月10日(木)
訪問先	石川県白山市
出席者	瀧口 慎太郎 委員長、山崎 由枝 副委員長、山本 智子 委員、 奈良 握 委員、新川 勉 委員、松田 則康 委員、田上 祥子 委員
随行者	大森主査
調査項目	白山市学校図書館支援センターについて
調査内容	<p>白山市は、松任図書館内に専用エリアを設けて学校図書館支援センターを設置し、学校司書の支援や学校図書館専用図書の配送などの取り組みを続けている。この取り組みは、子どもたちの読書環境の向上に成果を上げており、平成17年度と28年度の年間1人当たり図書貸し出し件数の比較では、小学校で43冊から145冊に、中学校で13.5冊から39冊へと増加していた。学校図書館支援センターでは、市内28校の小中学校からのレファレンスに対応しているが、平成19年度の年間45件から、29年度は230件と増加の一途となっており、市立図書館と学校図書館の連携が深まっていた。この他、図書館を使った調べ学習コンクールなどが企画されており、9,901人の児童・生徒の4分の1を越える2,706件の応募があるなど、子どもの学習意欲の向上に大きく貢献し、その入賞作品は学年に見合わない高度な内容となっていた。</p> <p>なお、事業概要の聞き取りを行った後、視察会場となった学校図書館支援センターの蔵書の状況等について、現地調査も行った。</p>
主な質疑	<p>Q 学校図書館の予算額は。 A 小学校は、1,000円×児童数+30万円、中学校は、1,500円×生徒数+30万円で、児童・生徒数から、総額1千数百万円程度となる。</p> <p>Q 学校司書の勤務体系は。 A 正規、非正規を問わず、週5日、1日7時間45分勤務で、職員会議等にも出席する。学校司書間での人事異動もあり、質の確保のため研修等も行われている。</p> <p>Q 学校図書館支援センターのスペースをどのように確保したか。 A 学校図書館支援センターが設置される前の図書館新設時から、学校図書館支援の専用スペースとして既に確保されていた。</p> <p>Q 調べ学習コンクールの支援体制は。 A 夏休み中も学校図書館は開館しており、司書に相談できるほか、夏休み前の教員の指導や、学校図書館支援センターに来る子どももいる。</p>

環境教育委員会所管事項調査報告書

期 日	平成30年5月11日（金）
訪問先	石川県野々市市
出席者	瀧口 慎太郎 委員長、山崎 由枝 副委員長、山本 智子 委員、 奈良 握 委員、新川 勉 委員、松田 則康 委員、田上 祥子 委員
随行者	大森主査
調査項目	ののいちカレードについて
調査内容	<p>野々市市は、面積 13.56 ㎥とコンパクトなまちであるが、市の中央地区の活性化が課題となっていた。この課題に対応するため、2つの拠点施設の整備を中核とした中央地区整備事業に取り組んでいるが、この核の1つとなる文化交流拠点施設が平成29年11月に開館した「ののいちカレード」である。施設のコンセプトとしては、図書館と市民学習機能の融合を掲げており、施設中央部分に図書館を配置し、その外周部分にキッチンや音楽スタジオ、研修室などの学習施設を図書館と一体的に整備していた。学習施設の利用者は、それぞれの活動に必要な情報をすぐに図書館で調べることができるとともに、図書館の利用者は、ガラス張りとなった学習施設内の活動の様子を見ることができ、利用者が相互に興味や関心が持ちやすくなるよう配慮されていた。</p> <p>なお、事業概要の聞き取りを行った後、新聞閲覧用デジタルサイネージなどの最新設備を含む館内調査を行った。</p>
主な質疑	<p>Q PFI方式での建設、運営について評価は。 A 来館者は伸びており、図書館整備としては合格と考えている。また、施設の備品類等について割賦で返済でき、財政平準化のメリットがあること、夜10時までの開館が可能なこと、デザイン面で高い評価を受けているブックタワーなど、斬新なアイデアが盛り込まれている点を評価している。</p> <p>Q PFIと指定管理者制度をどのように併用しているか。 A 市民学習センターについて利用料金が発生するが、指定管理者制度を用いることでそれを事業者の収益とし、事業の原資として活用してもらっている。施設稼働率を高めるほど、多くの事業が展開でき、事業者の評価が高まる仕組みになっている。</p> <p>Q 市内の大学との協働の取り組みは。 A 図書館に限らず、大学との協定に基づく連携をしているが、図書館の事例としては、施設模型の製作や建設工事中の見学会の実施等がある。</p>